

テーマは世界遺産

県外の大学生が研修

紀伊 田辺市本宮町

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を学ぼうと、県外の大学生が田辺市本宮町の県世界遺産センターで、研修を受けている。学生は講義を受けたり熊野古道を訪れたりして、世界遺産の保全や活用、文化的景観の特徴など、それぞれの研究に合わせた学習に取り組んでいる。

県世界遺産センターは、学生の夏休み期間に合わせた学習を支援する。8月1日～9月30日、大1～大4、卒業論文など専門対象の「世界遺産ゼミ」



県世界遺産センターで「紀伊山地の霊場と参詣道」について学ぶ大学生（田辺市本宮町で）

を開講している。1～4日間で、自分の研究テーマに合わせ、同センターの職員から指導を受けている。

これまでに筑波大学や大阪府立大学の学生計5人が利用した。同センターによると、世界遺産の保全と活用について取り組む学生が多いという。

3日には、京都大学農学部4年生の藤代直希さん(22)と、九州共立大学工学部4年生の山本直樹さん(24)が同センターを訪ねた。遺産登録の基準や経緯についてセンターで学んだ後、三軒茶屋跡近くの熊野古道に出向き、辻林浩センター長から石敷きの仕組みや古道を取り巻く自然環境、景観について説明を受けた。

森林資源の活用など森林科学を専攻している藤

代さんは、卒業論文で世界遺産登録地域にある民有林について取り上げる予定という。「海南市出身なので以前から熊野古道に関心があった。現地調査などを通じて行政の目指す植林地の在り方と現状の差を把握したい」と意欲を語った。

山本さんは、インターネットで「世界遺産ゼミ」を知り受講を申し込んだ。学部の会報誌に掲載する論文の取材旅行で、観光のための地域開発と世界遺産の保全の関係性を学んでいる。「もともと神社仏閣に関心があり、熊野古道に一度来てみたかった。箱庭のような作

URL: <http://www.gara.co.jp/>

られた観光地ではなく、住民生活と一体化した環境づくりの方法を模索したい」と話した。

時間制限通行止め

田辺市中辺路町の国道

県は14日まで、道路補修工事のため、田辺市中辺路町大内川の国道371号を時間制限通行止め

している。う回路は県道下川上車裏線と県道近露平瀬線。土、日曜と祝日は通行できる。

規制時間は次の通り。

午前9時
15分～正午
3時～3時
県道すまみ古座
み古座
止めに
い。日
きる。

6日(木)	158
果本	630
青学	263
紀州	53
南大	
根里	
ナ	
+	

県民参加の大会

技や水泳など37競技が想定され、監督と選手で参加者は約2000人

平成19年9月7日付 紀伊民報

県民参加の大会